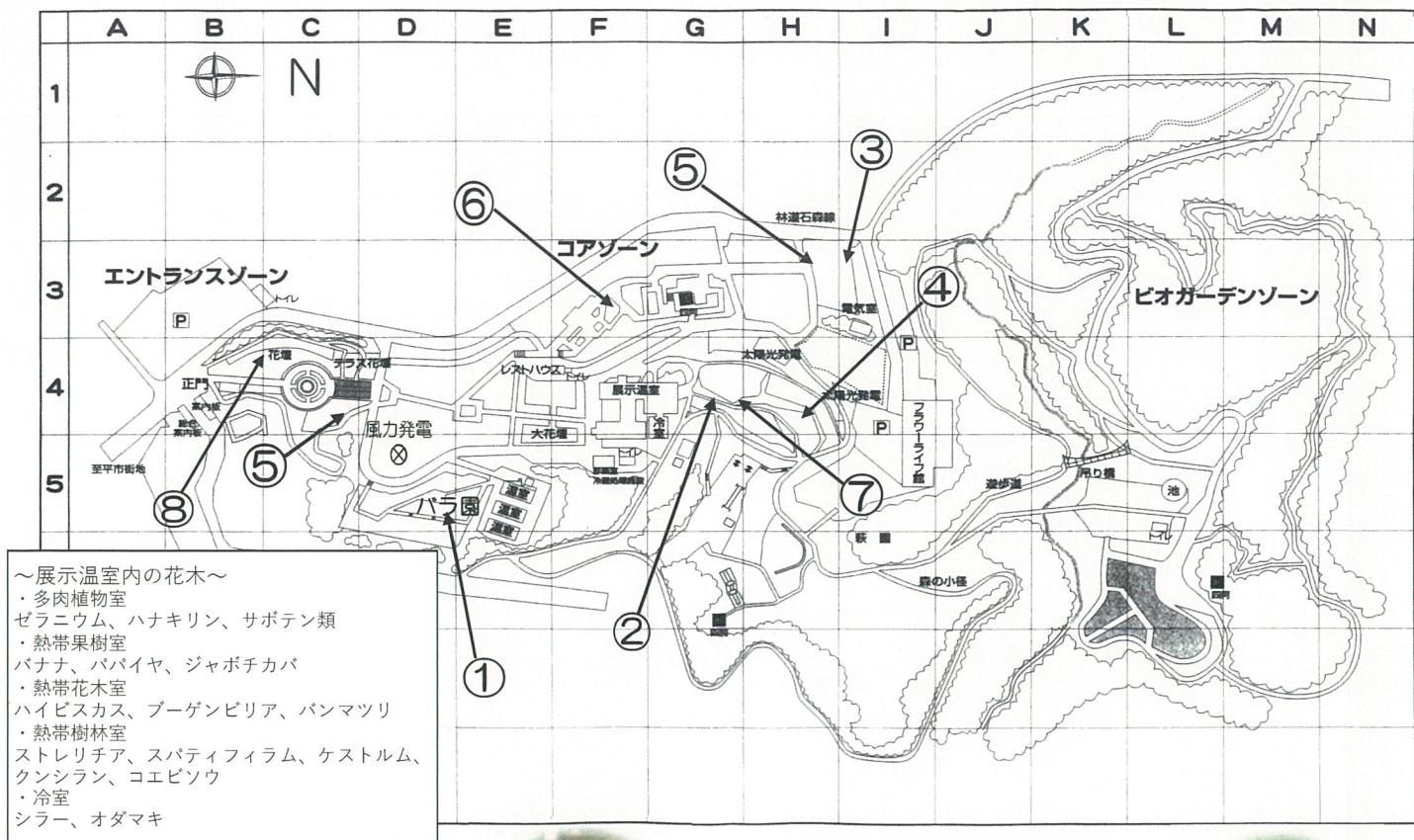


フラワーセンター【5月の花】

2019年度 5月中旬～

※園内の植物の盗難が相次いでいます。

園内の植物は絶対にとらないでください。



①バラ (風力発電の東側バラ園)

バラ科 落葉低木 原産：北半球各地

“花の女王”として絶大な人気を誇るバラは、花の美しさ、香りの豊かさで、その名にふさわしい風格と気品があります。日本の自生種、イノバラやサンショウバラなどは、優秀な交配親として重要視されている種類です。



②ユリノキ (展示温室北側通路沿い)

モクレン科 落葉高木 原産：北アメリカ中部

主な開花期は初夏で、カップ型の花が枝先に1輪咲きます。花色は外側が緑白色、内側は全体が緑黄色で付け根に近い部分がオレンジ色になります。花は10年生くらいから咲き始めます。非常に美しい花ですが、高い位置に咲くことも多くて気づかないこともあります。



③シャクヤク (イングリッシュガーデン北側)

ボタン科 耐寒性多年草 原産：中国東部～朝鮮半島

平安時代に中国から薬用として渡来し、ボタンとならんて豪華な花の代表として親しまれています。江戸時代に数多くの園芸品種が誕生して以来、日本の庭園に欠かせない花となっています。



④カルミア (展示温室とフラワーライフ館の間の通路)

ツツジ科 常緑低木 原産：北アメリカ東部

つぼみは金平糖のような、チョコレート菓子のアーモンドに似た形で花が開くと五角形の皿型になります。晩春につぼみが膨らみ開花期間は初夏から梅雨入りにかけて約1ヶ月ほどと長く、終わった花は散らずに茶色くなっています。



⑤ジャーマンアイリス (大階段脇テラス花壇他)

アヤメ科 宿根草 原産：地中海

地中海沿岸原産のアイリスを元に改良が重ねられ、今日の姿ができあがりました。花に特有のひげがあることから「ひげアイリス」と呼ばれたり、その色数の多さから「レンボーリリー」とも呼ばれることもあります。



⑥フレンチラベンダー (イングリッシュガーデン)

シソ科 原産：地中海沿岸

主な開花期は春～初夏で、花茎を伸ばしてその先端に小さな花を穗状にたくさん付けます。花壇に植えて花を楽しむほか、花や茎、葉などに芳香がありハーブとしても扱われます。



⑦トウオガタマ (展示温室とフラワーライフ館の間の通路)

モクレン科 常緑低木 原産：中国南部

花の直径は3cmくらいで花びらは厚くクリーム色、フチがほんのり紅紫色を帯びることもあります。花には完熟バナナをすっきりさせたような芳香があり、その甘い香りがこの木の特徴で大きな魅力です。香りには人それぞれ好みがあると思いますが、甘ったるさがさほどきつくなく、嫌みのない香りです。



⑧ベニバナトチノキ (フラワーセンター正門前芝生他)

トチノキ科 落葉高木 原産：北米南部

樹高10m～15mに達する高木ですが、低いうちからよく花を咲かせるので鉢植えにしたり、樹高を抑えて庭木に利用されます。主な開花期は5月～6月、枝先に赤紅色の花をまとめて咲かせて円すい状の花穂になります。

